



展示風景

シロクマに会いに 「群馬県立館林美術館」へ



ほべたん、群馬県立館林美術館へ!

北に渡良瀬川、南に利根川が流れ、2つの大きな川に挟まれる館林市。多々良沼や城沼など5つの沼や湿原が点在し、多様な動植物が息づく豊かな自然環境が保たれています。そんな街に「かわいいシロクマがいる」と聞いて、ほべたんがやって来たのは動物園、ではなく美術館です。目当てのシロクマを探すと、ガラス張りの展示室に発見!それは、美しくも愛らしい大理石の彫刻でした。

作者はフランス人の動物彫刻家、フランソワ・ポンポン(1855~1933)。彼の作品の魅力は、シンプルな形で、まるで動物たちが生きていくかのように表現していることです。代表作であるこのシロクマも、毛は一本も彫られていませんが、佇まいはまさにシロクマ。地面を蹴り上げる足、ぬつと前に伸びた首は、今にも動き出しそう。

動物園や農場の動物をモデルに、鶏や猪、カバ、オランウータンなど、さまざまな動物を作品にしたポンポン。動物からもなつかれるほど動物と仲良しだった彼



フランソワ・ポンポン《シロクマ》
1923-33年 白色大理石

時間があれば、多々良沼にも足を伸ばしてみましょ。一年間約100種類の野鳥を観察でき、11月から3月には、白鳥の群れが冬を越すためにシベリアから飛来します。晴れた日は夕日や富士山の眺望も壮観です。



多々良沼



丸ごと焼きりんごワッフル

12月中旬まで、スペインの画家ジョアン・ミロの版画作品を紹介する企画展も開催。色とりどりの形や線で自由に表現するミロの作品は、絵に詳しくなくても楽しめる。鑑賞後は併設の「エミール水辺のワッフルカフェ」で自家製ワッフルを味わってみては。

の彫刻は、どこか温かさを感じさせて、見ていると幸せな気持ちになります。群馬県立館林美術館は、「自然と人の関わり」をテーマに2001年に開館。テーマにふさわしい作家としてポンポンに注目し、作品をコレクションしています。建物は多々良沼のほとりに建ち、ガラス越しに広がる自然を背景に、のびのびとポーズをとる動物彫刻を鑑賞することができます。



ジョアン・ミロ《女と鏡》
1956年 © Successió Miró / ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2024 G3555

編集だより

歴史を感じる店構えに惹かれて寄り道したのは、館林で350年以上続く菓子店です。宮内庁にもゆかりのある銘菓「麦落雁」は、口に含むと麦の豊かな風味が広がります。聞けば、職人が一つひとつ手づくりしているそう。自家製コッペパンのできたてサンドも人気です。



みまやそうほんてん
三樹屋總本店
住所…館林市本町1-3-12
営業時間…9:00~17:00
TEL…0276-72-3333
定休日…日曜



群馬県立館林美術館
住所: 館林市日向町2003
開館時間: 9:30~17:00 (入館は16:30まで)
TEL: 0276-72-8188
休館日: 月曜(10月28日、11月4日は補館)、
10月29日(火)、11月5日(火)
企画展: 「スペインの巨匠・ミロ 版画の宇宙」
開催中~12月15日(日)

宅配ではお届けしている全てのカタログを回収しリサイクルしています。ご不要の場合は、担当者へ送付先を記載しお戻しください。